

## (2) 授業改善に向けて大切にしたいこと

### ア 学習につながりをもたせる単元づくり

県調査の結果及び実態調査の分析を基にした課題を解決するため授業を改善するには、「単元を通して考え、理解させること」を意識した単元を構成する必要があると考えます。そのためには、単元を通して生徒の学習意欲を継続させるために、生徒の興味・関心を高め、学ぶ必要性を感じさせ、「生徒の主体的な学びにすること」も必要であると考えます。

#### 単元を通して考え、理解させる

中学校社会科において各単元の目標を達成するには、単元を通じた計画的な指導に取り組むことが大切です。そのために、次の3点に気を付けて単元を構成すると、単元の全体像を把握させることができると考えます。

#### ① 「単元を通して考え、理解させる」ための指導計画

各単元の目標を達成するには、各単元で扱う内容を精選し、どのように身に付けさせるかを考えることが大切です。単元全体を把握して、限られた時間の中で「何を」「どのように」習得させるのか考えて、指導計画を立てることが必要と考えます。習得した知識を活用し多面的・多角的に考えるような言語活動を単元の中に意図的に仕組み、問題解決的な学習が展開されるように単元を構成します。その際、「学習問題（生徒が単元を通して学習する問題）」を設定し、その解決に向けて学習内容がつながるように意識させることが大切です。つまり、単元の全体像を把握し、学習問題を柱に学習内容のつながりを意識させ、図1のような問題解決的な学習となるような単元づくりを行うことが大切であると考えます。

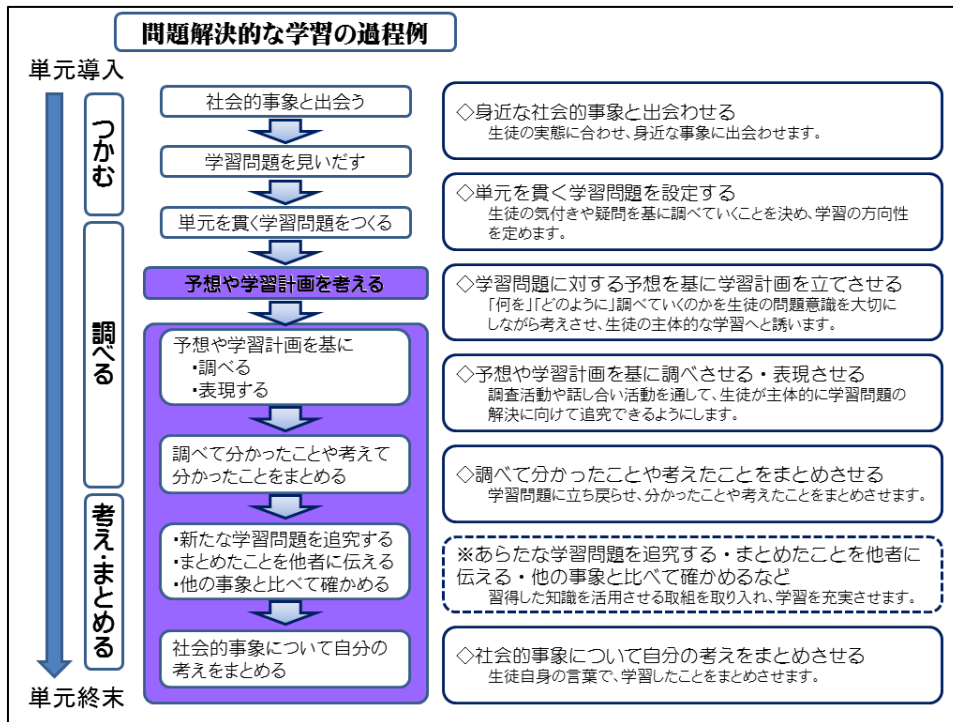


図1 問題解決的な学習の過程例

② 単元を貫く学習問題の設定

単元を貫く学習問題は、生徒にとって学習の目的となります。そして、学習問題の解決に向けて生徒が学習（追究活動）を進めていくことで、教師にとっては単元の目標が実現できるようになると考えます。学習問題を設定するに当たっては、生徒が社会的事象に出会って関心を向け、生徒の気付きや疑問を基に、対話を通して教師と生徒で共に学習問題をつくっていく学習活動が必要であると考えます。

③ 学習問題Ⅱ（論題）を設定して行う言語活動

単元を貫く学習問題は、単元で1つとは限らず、複数で構成することも考えられます。この場合、単元の「つかむ」過程で設定する学習問題Ⅰを基に、情報を集めて社会的事象の理解を図ります。その後、発展的な学習問題Ⅱを見だし社会的事象について考えを深めさせ、単元の目標が達成できるようにします。学習問題Ⅰについてまとめさせるときに、生徒の理解に揺さぶりをかける情報を提示して論題を立て、この論題を学習問題Ⅱとして意思決定を迫り、それを基に討論型の学習に取り組ませることも考えられます。佐賀県教育センターが平成25・26年度の「プロジェクト研究」で取り組んだ小・中学校社会科教育研究委員会の研究では、図2のような「意思決定を取り入れた討論型の学習」の単元構成図が示されています。<sup>(1)</sup>このように、複数の学習問題を設定することで、社会的事象について段階的に追究させることができ、確かな理解や深い学びにつながると考えます。

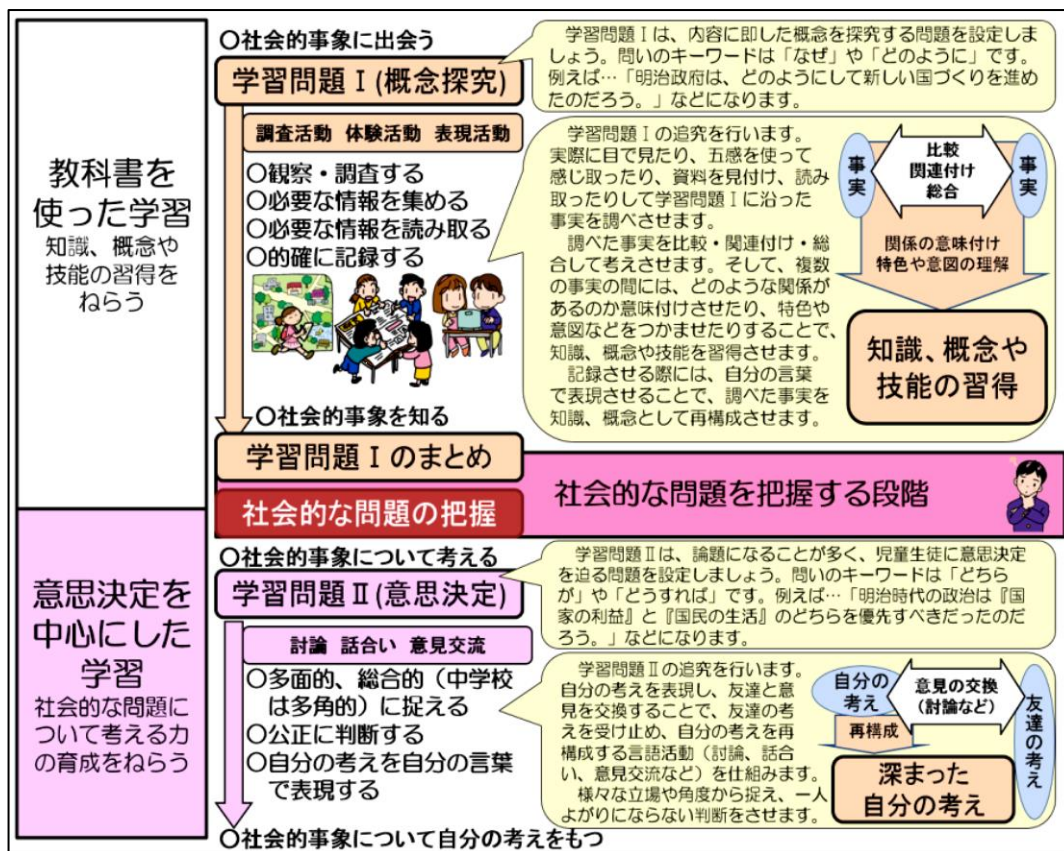


図2 「意思決定を取り入れた討論型の学習」の単元構成図

図2 平成25・26年度 佐賀県教育センター「プロジェクト研究」小・中学校社会科教育研究委員会ホームページより引用

## 生徒の主体的な学びにする

単元を通して生徒の主体的な学びを展開するためには、学習の目的を明確にさせる必要があります。つまり、単元の学習問題に対して「何がどのように問題なのか」「なぜ調べるのか」という問題意識をもたせ、追究活動や表現活動を展開する必要があると考えます。そのために、次の3点に気を付けて指導に取り組むと、生徒の問題意識が継続すると考えます。

### ① 生徒の気付きや疑問を基に設定する学習問題

単元の「つかむ」段階において、生徒が社会的事象に出会う場面を大切にしたいと考えます。そこでは、生徒に身近な社会的事象を取り上げ、資料などを提示して関心をもたせることが大切です。また、そこから生まれる生徒の気付きや疑問を基に、学級全体で追究・解決する学習問題を見いだす場面を設定します。この学習問題は、単元を貫くものとして考えておくことが大切で、疑問形にすると次のようなものが考えられます。

#### ※単元を貫く学習問題の文型《例》

- ・「どのように(な)～だろう」・・・事実を調べる活動に向かう
- ・「なぜ～(しているの)だろう」・・・社会的事象の意味を考える活動に向かう
- ・「どちらが(何が)～だろう」・・・社会的事象の意義や課題を判断する活動に向かう
- ・「どうすれば～だろう」……………現代社会の課題の解決策を考える活動に向かう

### ② 習得した知識や概念を学習問題とつなげる手立て

単元の「調べる」段階においては、1単位時間の学習内容を振り返らせる場面で、単元を貫く学習問題と習得した知識や概念の関連を意識させながらキーワードを使ってまとめさせ、整理させます。また、単元を貫く学習問題に対して、各時間の終末に、その時点での自分の考えを記述させることも考えられます。自分の考えを記述するときには、その時間の学習した内容を根拠に理由を付けて説明するように促します。そして、追究活動を通して整理された情報が、単元の「まとめる」段階で活用されることを意識して整理させたいと考えます。ここでは、次のようなねらいから「めあて」を立て、追究活動に取り組ませます。

#### ※1単位時間の追究活動のねらい

- ・事実を集めさせるため
- ・集めた事実を整理させるため
- ・集めた事実から社会的事象の特色や意味を考えさせるため

### ③ 調べて分かったことや考えたことを論述する手立て

単元の「まとめる」段階では、学習したことを振り返り、単元を貫く学習問題に照らして結論を導き出させることを意識したいと考えます。ここでは、学習してきたことの全体像をつかみ、調べて分かったことや考えたことを基に、社会的事象の意味や意義について考えることができるように指導します。さらに、新たな資料で生徒の思考を揺さぶり、現代社会の課題について考えさせたり、他の視点から捉え直したりする「意思決定を取り入れた討論型の学習」を通して、多面的・多角的な考察や公正な判断を促すような指導も考えられます。意思決定の根拠に習得した知識や概念が活用され、その根拠を吟味させることで、知識や概念が定着するようになると思います。そのために、根拠や理由を述べさせたり、記述させたりする必要があると考えます。

「単元を通して考え、理解させること」「生徒の主体的な学びにすること」を意識した単元づくりを行うと、単元を通じた学習が、下記のように展開されることとなります。

まず、単元の導入において、社会的事象に対する生徒の気付きや疑問を引き出しながら問題意識を高め、学習全体の見通しを立てさせます。このとき、学習問題を設定し、気付きや疑問を整理して学習計画を立てさせます。次に、単元の展開において、学習問題の解決に向けて追究させ、学習計画に沿って1単位時間の学習内容を理解させるようにします。このとき、調べて分かったことや考えたことを、簡潔な文章にまとめさせたりキーワードを使って整理させたりします。最後に、単元の終末において、単元を振り返らせながら、学習問題に対する自分の考えを自分の言葉でまとめさせます。この時、単元の展開で記述した簡潔な文章やキーワードを使って、解決したことを説明させたり自分の考えたことを論述させたりします。また、単元の終末で新たな学習問題（論題）を設定し「意思決定を取り入れた討論型の学習」を展開し、思考を深めたり広げたりします。

つまり、単元を通して学習につながりをもたせ、習得した学習内容を活用させて言語活動の充実を図れば、基礎的・基本的な知識や概念を習得させながら、社会科における思考力・判断力・表現力を身に付けさせ、理解を深めさせることができると考えます。

このようにして、県調査に見られる課題の解決に向けて生徒に必要な力を明らかにし、授業を改善するためのポイントとして以下のように考え整理しました。

#### 改善のポイント

- 1 社会的事象に対する生徒の気付きや疑問を基に、単元を貫く学習問題を設定すること
- 2 社会的事象について調べたことや考えたことについて、簡潔な文章にまとめさせたり、キーワードを使って整理させたりすること
- 3 社会的事象について説明したり自分の考えを論述したりする際に、根拠と理由を述べさせること

## 引用文献

- (1) 佐賀県教育センター 『平成 25・26 年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』 平成 26 年 3 月  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h26/01\\_syakai/h26\\_proken\\_syakai\\_jissai2-6.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/h26_proken_syakai_jissai2-6.htm)

## 参考資料

- ・ 澤井陽介 『澤井陽介の社会科の授業デザイン』 2015 年 東洋館出版社
- ・ 澤井陽介 『社会科授業づくりトレーニングBOOK』 2015 年 明治図書
- ・ 澤井陽介 『児童の思考をアクティブにする社会科の授業展開』 2016 年 東洋館出版社